

# 平成28年度 第3回小平市農業振興計画検討委員会 会議要録

## 1 開催日時及び場所

日時：平成29年3月9日（木）午後3時から4時30分まで

場所：小平市中央公民館 2階 講座室2

## 2 出席者

### (1) 委員

9名（松澤委員欠席）

### (2) オブザーバー

滝澤地域振興部長、多摩信用金庫 価値創造部 嗟峨調査役

### (3) 事務局

市：板谷産業振興課長、同入澤係長、同鎌田係長、同飯泉、同十河

多摩信用金庫：経営戦略室 中西調査役

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、UR A室 中西

## 3 配布資料

資料① 小平市第二次都市農業基本構想の総括概要

資料② 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）

資料③ 今後のスケジュール

## 4 内容(議事要旨)

### (1) 議題

#### ① 小平市第二次都市農業基本構想の総括について

事務局から資料①を用いて、小平市第二次都市農業基本構想の総括について説明をした。

#### ② 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書(案)

事務局から資料②を用いて、小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）について説明をした。

#### ③ 農業振興計画策定に向けたブレインストーミングで取り上げる議題・論点

第4回小平市産業振興基本計画検討委員会で実施予定のブレインストーミングで取り上げる議題・論点について検討を行った。

### (2) 質疑応答

(委員長) 事務局から説明があった基礎調査報告書（案）の中には専門的な用語や普段聞き慣れない言葉が多く使われていると思います。また、表の見方や考え方などどんなことでもよいので分からないことについて質問を受けたい。

(委員) 最初にP44の農林水産省の農林業センサスですが、対象者がアンケート配布先と違

うと考えるが、その辺りの説明があった方がよい。

(事務局) アンケート配布先は小平市内の全農家に配布しております。農林業センサスは最初に回答してもらった農家の数から1度でも回答がない場合、その後の調査は行わず、回答があった農家数のみを明記しているため、今回のアンケート回答数と違いがあります。

(委員) 説明を聞けばわかるが、報告書に注意書きが必要ではないか。P45の専業農家数ですが、こんなに多くはないと考える。私の知る限りでは、10戸未満だと思うが。

(事務局) 農林業センサスは、例えば、世帯が別で、親が農業収入のみ、子供が不動産収入で調査にそれぞれの回答を行えば、専業農家が1とカウントされてしまうため、集計の仕方が違う。他市との比較をするために報告書に載せている。

(委員) P74の折れ線グラフは見づらいのでは。

(事務局) 一般的なグラフの表し方になっている。

(委員) ヒアリングの12件については、どうやって選んだのか。規模、地域、野菜の種類、果物の種類などどうやって選んでいるのか。

(事務局) 市場出荷、直売、観光農業、体験農園など経営体の種類が違う農家を選んでヒアリングを行った。

(委員長) 結果的には、市内を分散して行った。

(委員) 無効回答はどういったものが該当するのか。

(事務局) 白紙回答のものです。

(委員) 多い順に上から並べるのでは。

(事務局) 表の部分に関しては設問の番号を重視している。

(委員) P138の家族構成や同居家族の人数の件数が違うのは仕方ないが、注意書きを書いておいた方がよいのでは。P48の生産緑地地区とは何ですか。

(事務局) 生産緑地の地区の一区を表します。

(委員) 設問が35あったが、自由意見については何があったか。

(事務局) 手元に資料がないので、今後自由意見が反映できるか検討します。

(委員長) 指摘された意見については、修正できるとことは修正し、最終的な報告書に盛り込みたい。

(委員長) これから、農業振興計画策定に向けたブレインストーミングで取り上げる議題・論点について、委員会の中で意見を出し、どのような形で振興計画に盛り込んでいければよいか議論していきたい。

(委員) アンケートの結果から後継者がいないと出ていたが、担い手の育成のところで市民の方との連携を重点的にしていければよいのでは。援農ボランティア制度のハードルを下げ、多くの市民に農業へ参加してもらいたい。専門知識がなくてよく、単純作業をやっていただけの方がいれば、農家は助かる。農家側の受け入れ体制の意識が低いので、勉強会を市で行っていった方がよいのでは。

(委員) 産業振興の中の農業であって、市民が農と触れ合う機会と農業を趣味で楽しむ市民とのバランスを取ることが大事なのではないでしょうか。

(委員) 全体的には小平の都市農業は小規模な農家が多く、不動産収入に頼らなくてはいけな

い。相続ごとに農地面積は減っている。都市農業をどうやって守るか。税制や法律とか難しい問題はあるが、市民の生命を維持する農産物を維持する家族経営や個人経営に任せているのは問題である。産業化はなかなかできない現状がある。

計画を作った後のことが大事で、実行部隊とPR部隊のシステムを構築する必要があるのではないのでしょうか。

(委員) 個人直売所を経営している方に話を聞くと後継者がいないと言っていた。後継者問題を何とかしてあげたい。

(委員) P44では農家件数は年が経つごとに減少傾向が早まっているように考える。個人でできることがあるとすれば、個人の直売所で野菜を購入する。または小平ファーマーズ・マーケットなどの共同直売所で購入する。その周知方法として、口コミで地元の野菜を買ってもらうことを進めることで貢献できるのでは。

(委員) アンケート結果から数字自体が独り歩きをしないか心配である。

直売所で小平の野菜が手に入らないと聞きますが、一番買う人が直売所の空いている時間には買い物に行けないなどニーズとマッチしていない。その辺りを振興計画の中で浮き彫りにできないか。

また、東京の農地というのは公共~~財地~~でもあるので、市民の理解を得ながら、都市農業を行うことは大変なことである。お互い(市民と農家)に知り合う場所を作ってほしい。

(委員) 後継者がいない問題がある。個人農家としては、農協の共同直売所が昨年でき、農協への出荷量今後増やしていきたいので、今年から生産を増やしていこうかと考えている。

観光の視点からグリーンロードと玉川上水を含めて何かできないか。

(委員) P157の農業の売上から見ると、500万円以上が農業経営であって500万円未満は生きがいとしての農業であって、振興計画を作るにあたり、同一の計画にはできないのではないか。

大事なことは、農業所得の向上である。それが達成できれば、後継者、配偶者問題も解決できると考える。

(委員長) 各委員から様々な意見を出していただいた。その中で産業としての農ということで、産業としては農をどのように成り立たせるのか。小平の農産物、ブランド化、直売所、農家の各ケースによって分けながら考えてく。

次に担い手(後継者)問題、第3番目に農地の保全(有効活用)を3つの論点を基に第4回は自由討議を行っていきたいがいかか。

(委員) 異議なし。

(委員長) この検討委員会で出た意見を基に小平に合った農業振興計画を作っていきたい。

### (3) その他

#### ① 今後のスケジュールについて

事務局から資料③を用いて、今後のスケジュールについて説明をした。

(委員長) 事務局から説明があった第4回検討委員会で自由討議は計画策定に向けた非常に重要な回と考える。委員できる限りの出席をお願いしたい。

次の会議は4月11日午後で開催したいがいかがでしょうか。  
(委員) 異議なし。  
(委員長) それでは次回日程を4月11日午後と決めさせていただきます。  
以上で、第3回検討委員会を終了する。

以上